校内研修計画

（１）研修の目的

全職員が実践的研修を相互に深め、教職員としての資質の向上に努めるとともに、児童生徒の様々な力を伸ばすための具体的実践を積むことによって学校教育の充実を図る。

（２）研修の視点

ア　本校の学校教育目標を達成するための研修
イ　教職員としての専門性や視野を広げる研修
ウ　児童・生徒の変容を追求し、その喜びを味わえる研修
エ　全職員の協力体制のもと、効果的な運営組織で進め、主体的に参加する研修

（３）研修の基本方針

ア　課題研修

①　全職員の意思統一を図り、常に児童生徒と密着した研究を進める。
②　課題研修の深まりや実践が、児童生徒に反映される研修を進める。
③　教師としての専門性を深めるために、全職員が主体的に参加し、創りあげる研修にする。

イ　現職研修

①　人権教育研修、特別支援教育研修、道徳教育研修、情報教育研修、不祥事防止研修等を推進していく。
②　職員の希望に添った実技研修を行うことにより、実践的力量の向上に努める。
③　学期に１回、村内保育所との連携を密にし、研究や情報交換の機会をもつ。（保義連携）
④　各種研究会の報道や児童理解の場を適宜設け、共通理解の場とする。

（４）課題研修について

ア　研究主題

主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成

～ふるさと学習「みずかみ学」の実践を通して～

イ　主題設定の理由

①　教育の今日的課題から

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展しており、子どもが義務教育を終えた時点での未来についてですら、予測することが困難な時代である。今はまだ存在しない職業に就き、まだ発明されていない技術を活用し、想像し得ないような社会の課題に向き合っていく準備をするための場として、学校が果たすべき役割は大きいと考える。

学習指導要領では、こうした社会的動向を受けて、育成を目指す資質・能力を、「（ア）生きて働く『知識・技能』の習得。（イ）未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成。（ウ）学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養。」としている。

必要な知識や情報を容易に検索することができる現代において、暗記したことを再現する力は重要とは言えない。様々な情報や出来事を正しく受け止め、主体的に判断しながら、社会の中で自分ができることやどのような未来を創っていきたいのかを考え、他者と協働して課題を解決していく力が求められている。

② 本校の教育目標及びめざす児童生徒像から

令和６年度の本校の教育目標及び育てたい資質・能力は次の通りである。

教育目標

ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、心豊かでともに高め合う児童生徒の育成

育てたい資質・能力

実践力：自ら考え、学び行動する力
表現力：ともに高め合い、表現する力
郷土愛：郷土を愛する豊かな心

学校生活の大部分を占める授業の充実は、この教育目標の実現に欠かせないものである。実現に向けた手立ての一つとして、校内研修において、「主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成」を目指していく。

昨年度は、前期課程、後期課程ともに同じ研究テーマで取り組み、授業に向かう姿勢や授業づくりの基盤はできてきた。そこで、施設一体型義務教育学校となった今年度は、昨年度の成果を共有し、更なる授業づくりの工夫・改善に取り組むとともに、本校の共通の課題となっている「児童生徒の主体的な学びの推進」「児童生徒の表現力向上」の克服に向け、共通実践を行っていく。

その中で、育てたい資質・能力の「実践力」「表現力」についての身に付けさせたい力の育成につなげていく。また、「郷土愛」については、道徳教育をはじめ、学校教育全体で豊かな心を育めるよう普段の学校生活の中で実践を行っていく。

③ 本校の児童生徒の実態から

それぞれの学力調査の結果は全体的には県平均を上回っていたが、共通して「読解力」に課題が見られる。また、普段の学校生活においても、「自ら考え判断し、主体的に取り組むことが苦手」「発表する子どもが固定化されている」「考えは持っているものの、それを表現できない（しようとしない）」などが課題となっている。

「学びの主体」は児童生徒であることをもう一度全職員で共通理解し、基礎・基本の徹底による学力の保障とともに、そこから生まれるであろう達成感や知的好奇心を次の学びにつなげていくことで、学びへの意欲を高め「主体的な学び」や「表現力の向上」につなげていくようにする。

さらに、義務教育学校としての強みを生かす点として、各ステージでの授業や家庭学習等の学び方の系統性を踏まえた円滑な接続にも力を入れていきたい。

これらの取組や実践を行うことで、児童生徒が「できた」「わかった」「次はこうしてみたい」と学ぶ意欲が高まり、「学び」に向かう姿勢が自分のものとして身に付くのではないかと考える。

こうした教育の今日的課題を踏まえた上で、本校の研究主題を「主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成～ふるさと学習「みずかみ学」の実践を通して～」と設定した。受け身の姿勢で知識・技能を吸収していくのではなく、主体的に学び、既有の知識・技能と、新たに習得した知識・技能と結び付け、自分なりに再構成していく学びの過程を経ることができるように、ICT を活用するなど、自ら学びをつなぐための実践を工夫していきたい。

ウ　研究の仮説

学びを支える日常的な指導に取り組み、対話的な学びを促す工夫や振り返り活動の充実を通して、自分の考えを適切に表現する授業づくりを行えば、主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成が図られるであろう。

エ　研究の視点

仮説検証のための研究の視点と具体的方策は以下の通りである。

視点１　主体的に学びに向かう授業づくり

① 単元ゴールの明確化（魅力ある課題設定）
② 異学年交流の場の設定
　・学び合い活動
③ 振り返り活動の充実
　・振り返りの視点の提示（学びをつなぐための振り返りの視点の明確化）
　・振り返りシートの活用（継続的な記録の蓄積による変容の適切な見取り）

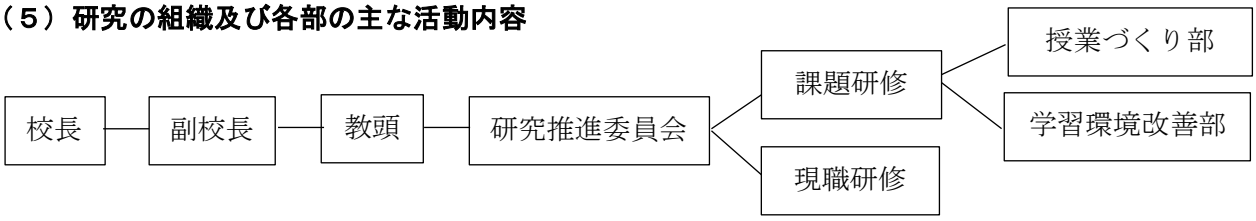
視点２　自分の考えを適切に表現する授業づくり

① 意図的・計画的な表現する場の設定
② 表現力（プレゼン力）育成
　・表現力（プレゼン力）の系統

視点３　学びを支える日常的な指導の工夫

① 朝自習・業間、学習の時間の充実
　・基礎・基本の徹底
　・ＩＣＴスキルの向上
　・学び合い活動
② 家庭学習の工夫
　・自ら計画を立てて、自ら学ぶ取組の充実（自学の充実）
　・授業と連動した家庭学習内容の充実（タブレット端末の持ち帰り）

（５）研究の組織及び各部の主な活動内容



※研究推進委員会：教頭、教務、研究主任、「みずかみ学」各ステージ担当

【部会】◎は部長

	授業づくり部会	学習環境改善部	統計部
第１	◎井上、吉田、山田き、安藤	◎太田、岩野、橋本、宮原	椎葉、石原
第２	◎山之内、平川、髙橋	東、清水、山田め	尾方、内村
第３	◎石川、増井、加藤	左座、大中	田上、山中

【専門部会】◎は部長

	知育部	徳育部	保体部
	◎山之内、石川 吉田、加藤、大中	◎井上、増井、平川 山田き、岩野、東い、 清水	◎髙橋、山田め、橋本、 太田、左座、安藤、 畑田、宮原

（７）研究の活動内容

ア　研究推進委員会

① 研究内容の検討、研究計画の立案・修正

② 研究推進のための連絡・調整

③ 研究授業の事前検討会

イ　各部会

各ステージ部会

① ふるさと学習「みずかみ学」の計画立案、実施

② 授業における表現力向上に関する研究推進

③ 研究授業の運営

学習環境改善部

① 朝自習・業間、学習の時間、家庭学習等の提案

② 授業改善・学力充実に関するアンケート等の作成、分析、評価、改善案の提示

統計部

① 各種アンケートの集計

（８）研究の進め方

○　校内研修の時間は、原則として水曜日とする。

○　各部会を適時水曜日１６：１５から行う。

○　小研ウィーク等を実施し、授業を見合う取組を推進する。

○　３学期には、実践報告会を行う。

（９）現職研修について

人権教育研修、特別支援教育、道徳教育研修、情報教育研修、不祥事防止研修等については、担当者と連携を図り、研修の機会を設けていく。また、各種研究会等の報道については、適宜機会を設け、情報提供する。

（６）研究構想図

本校の教育目標
ふるさとに誇りを持ち，自ら学び，心豊かでともに高め合う児童生徒の育成

研究主題　　主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成
～ふるさと学習「みずかみ学」の実践を通して～

児童・生徒の
主体的・対話的で
深い学び

視点１　主体的に学びに向かう授業づくり
① 単元ゴールの明確化
② 異学年交流の場の設定
③ ③振り返り活動の充実

視点２　自分の考えを適切に表現する授業づくり
① 意図的・計画的な表現する場の設定
②表現力（プレゼン力）の育成

視点３　学びを支える日常的な指導の工夫
① 朝自習・業間、学習の時間の充実
② 家庭学習の工夫

安心安全な学校（人権教育の充実・環境整備）

保護者の願い　　児童・生徒の実態　　地域の願い